中学

WinPass

国語 3年

文学的文章 情景・展開や古典 助詞の補充・主語・会話文等の問題集
中3国語 | 中学WinPass

3 文学的文章(1) 情景・展開

学習目標
・表現に注意して情景描写の部分を捉えることができる。
・場面を押さえて情景描写に反映された心情を読み取ることができる。
・場面や人物の変化を押さえて展開を捉えることができる。

要点のまとめ

●情景

情景とは? 登場人物や作者の視点から描かれる風景や場面の様子。登場人物の心情を反映していることも多い。

❶ 情景を捉える その場面の様子がどのように描かれているかに着目する。

注目ポイント
- 目に見える風景・季節や時刻を感じさせる表現
- 聞こえる音や、風や温度など、体で感じるもの
- 工夫された表現(擬音語・擬態語、色彩表現、比喩表現など)

❷ 情景と心情を重ねる 情景描写のイメージを捉え、登場人物の行動や様子と重ね合わせて心情を読み取る。

例 転校初日の朝。からりと晴れて透き通るような青空だ。(情景)
← 情景描写のイメージ=すっきりさわやかで心地よい
少女は背筋をのばして歩き始めた。(登場人物の様子・行動)
⬇ さわやかで心地よい情景は、新しい生活に前向きに踏み出す少女の気持ちを反映し、何かよいことがありそうな予感を示しています。

●展開

展開とは? 物語が変化していく道筋のこと。次のポイントに注目して捉える。

注目ポイント
- 出来事の変化(新しい出来事など)
- 時間、場所の変化や、登場人物の入れ替わり
- 登場人物の心情や、考え方の変化

確認問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

5

Ⅱ 漢字・語句・文法の確認

(1) 漢字の読み書き ——線㋐〜㋓の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。

㋐(　　)　㋑(　　)いて
㋒(　　)　㋓(　　)

(2) 訓読み 〜〜線A「通勤」の、「通」と「勤」の漢字の訓読みを、□に当てはまるように平仮名で書きなさい。

通=□う　勤=□める

SAMPLE

(3) 部首　〰線B「迎」の部首名を、平仮名で答えなさい。

(4) ! 文節・単語　〰線C「今日は若いお巡りさんだった。」の文節数と、単語数を、それぞれ算用数字で答えなさい。

文節数 ［　　］　単語数 ［　　］

(5) ! 熟語を考える　〰線D「別」を使った熟語を、□に漢字を当てはめて二つ作りなさい。

［　　］別・別［　　］

(6) 語句の意味　〰線E「不覚にも」の意味として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　油断してうっかり　　イ　突然思い立って
ウ　感動してしみじみと　　エ　いつも通りあっさり

［　　］

文章内容の確認

(7) 場面　この場面の季節はいつですか。漢字一字で答えなさい。

［　　］

(8) 文章内容の確認　この場面の一週間後は、何の日ですか。次の□に当てはまる言葉を書きなさい。

▪「私」の［　　］の日。

SAMPLE

基本問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(1) 情景 ——線①「朝日がまぶしかった。／川岸の満開の桜が、春風に揺れて笑っているようだった。」という情景から読み取れる心情として、適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 定年を迎え、慣れ親しんだ人々と会えなくなる寂しさ。
イ 定年を迎えた後の、新しい生活に対する不安。
ウ 定年を目前に感じている、晴れ晴れとした達成感。
エ 定年までしっかり働こうという、強い責任感。

□

(2) 場面 ——線②「歩く楽しみ」とは、どんなことですか。文章中から二十五字程度で二つ抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

□～□
□～□

(3) 内容理解 ——線③「別れの挨拶をしてあった」とありますが「私」は誰(だれ)に別れの挨拶をしたのですか。文章中から抜き出しなさい。

□

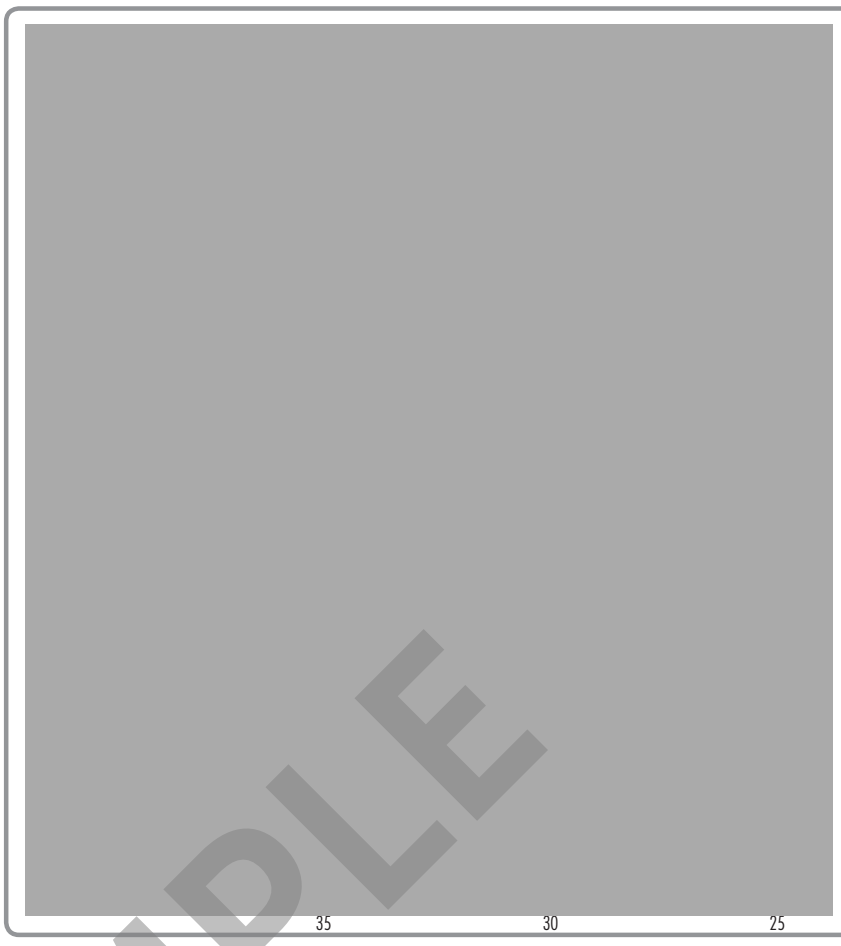
(4) ! 場面 ——線④「年長の男の子が小さな花束を差し出した」とありますが、小学生たちが「私」に花束を渡したのはなぜですか。次の文の□に当てはまる言葉を、三十字以内で書きなさい。

お巡りさんから、「私」が定年だと聞き、

□

から。

SAMPLE



35　30　25

(5) **内容理解**　――線⑤「胸が詰まって何もいえなくなってしまった」とありますが、このときの「私」の気持ちとして適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　礼儀正しい小学生の姿に心から感心する気持ち。
イ　思いがけない温かい心に触れて感動する気持ち。
ウ　自分の努力が報われたことに満足する気持ち。
エ　これからも挨拶を続けてほしいと願う気持ち。

□

(6) **展開**　この文章を大きく四つに分けたとき、二番目のまとまりの始まりは本文の★の箇所と考えられます。三、四番目のまとまりは、どこから始まりますか。それぞれ初めの五字を抜き出しなさい。

三番目 □
四番目 □

(7) **文章の把握**　この文章に描かれている内容として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　挨拶をすることの大切さ。
イ　一つのことを継続することの難しさ。
ウ　支え続けてくれた人々への感謝。
エ　日常の中で出会った小さな喜び。

□

要点プラス

- 情景描写は、出来事の後に示されることが多い。

例 けんかをしていた二人の中学生が、仲直りをした（登場人物の状況）
（心情）仲直りできてよかった。
←
いつの間にか雨が上がり、さわやかな青空に、大きく鮮やかな七色の虹がかかっていた。（情景）
けんかをしていた状況（＝雨）が終わって、仲直りでき（＝青空）、晴れやかになった二人の気持ちが、鮮やかな虹の情景に重ねて表現されている。

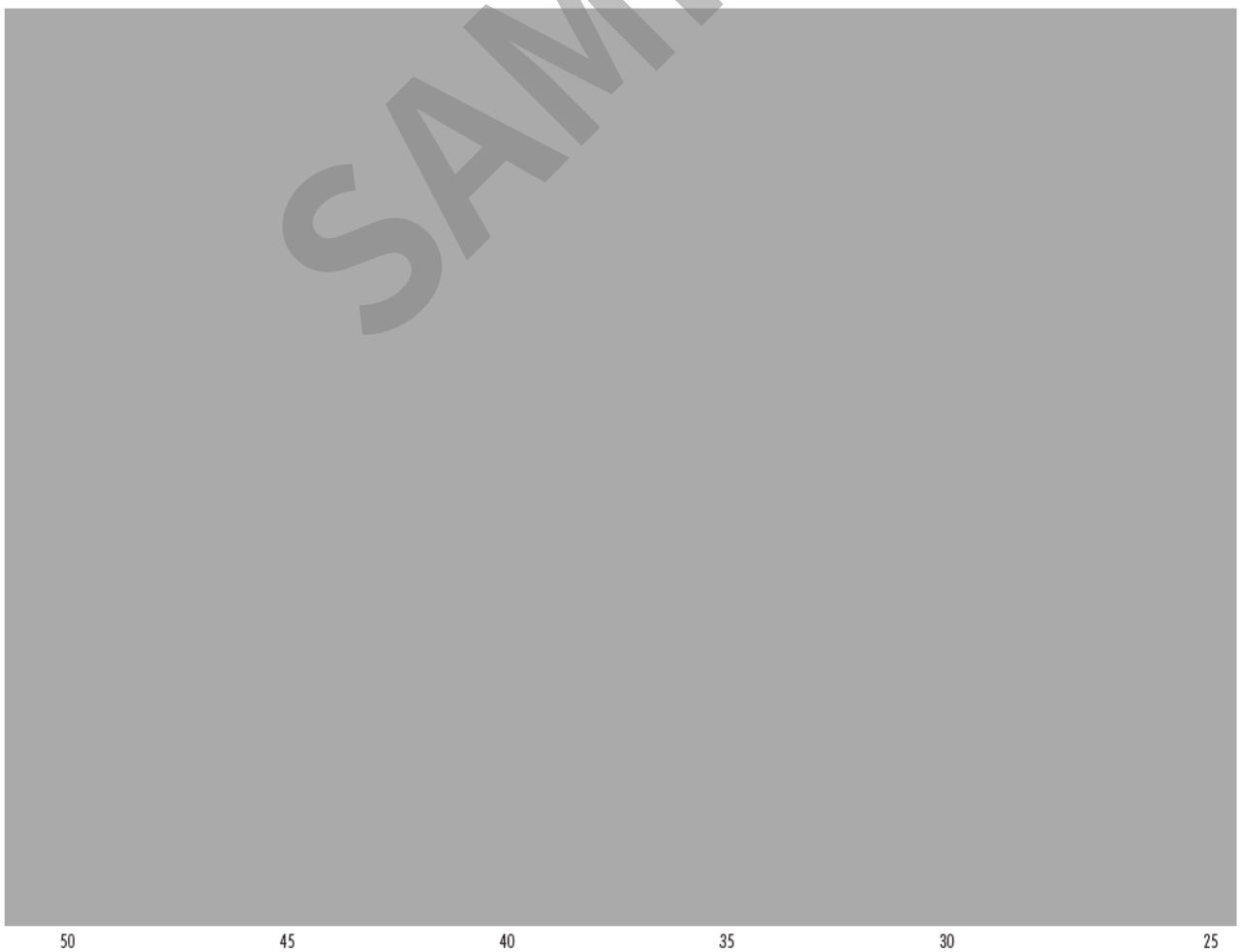
※物語の初めに情景描写が示されている場合は、その情景が、後に起こる出来事を暗示しています。

SAMPLE

演習問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

20 15 10 5



50 45 40 35 30 25

SAMPLE

(1) 展開　――線①「行くぞ！」とありますが、この後、走哉たちはどのような戦い方をしましたか。次の文の［　］ⓐ～ⓒに当てはまる言葉を、ⓐは四字、ⓑは一字、ⓒは五字で文章中からそれぞれ抜き出しなさい。

▪正面から攻撃するのではなく、相手の手をⓐ［　　］ようにして、ⓑ［　］に回りこみ、ⓒ［　　］をついて、帽子をつかもうとした。

ⓐ［　　］
ⓑ［　］
ⓒ［　　］

(2) 内容理解　走哉たちの騎馬戦の結果を示している部分を、文章中から十一字で抜き出しなさい。

［　　］

(3) ――線②「馬たちの顔にも笑みがもどった。」について、次の各問いに答えなさい。

1　場面「馬たち」とは誰ですか。三人答えなさい。

［　　］
［　　］
［　　］

2　内容理解　なぜ「笑みがもどった」のですか。その理由として適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　一生懸命やったことで楽しかったから。
イ　勝負にこだわることがばかばかしく思えたから。
ウ　みんなで力を合わせることができたから。
エ　今までで一番いい戦いをしたと感じたから。

［　］

(4) 展開　――線③「走哉は両腕をいすにだらりとさげて、ぼんやりトラックをながめていた。」について、次の各問いに答えなさい。

1　この後、走哉の様子が急激に変化します。それがわかる一文を文章中から抜き出し、初めの五字を書きなさい。

［　　］

! 2　走哉の様子が急激に変化したのはなぜですか。「理想」という言葉を使って、三十字以内で書きなさい。

［　　］

! (5) 情景・文章の把握　――線④「空をあおぐと、飛行機雲が一本、まっすぐなめに線を引いていた。」からは、誰の、どのような心情が読み取れますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ヒロシの、断トツで一位になれたことを誇らしく思う気持ち。
イ　走哉の、みんなが力を出し切ったことをすがすがしく思う気持ち。
ウ　ヒロシの、クラスのみんなの役に立てたことを喜ぶ気持ち。
エ　走哉の、足が速くて上から目線のヒロシを苦手に感じる気持ち。

［　］

情景描写を捉える→文章の主題に迫る

☆情景描写は、出来事の始まりや終わりに印象的に描かれ、多くは、文章全体の内容に関わるような、重要な心情が反映されています。そのため、情景描写を捉えることで、主題に迫ることができるのです。

SAMPLE

読解編

17 古典(4) 古文 助詞の補充・主語・会話文

学習目標
・適切な助詞を補って読むことができる。
・主語を確かめながら読むことができる。
・地の文と会話文を区別することができる。

要点のまとめ

●助詞の補充

古文では、主語を表す助詞「が」「は」や、対象・目的を表す助詞「を」などが省略されていることがある。

❶「が」「は」の補充…**主語**となる言葉の直後には、「が」または「は」を補う。

❷「を」の補充…**目的語（対象）**となる言葉の直後には、「を」を補う。

例 をりふし北風（が）激しくて、磯（を）打つ波も高かりけり。

【現代語訳】ちょうどそのとき北風が激しく吹いて、磯を打つ波も高かった。

●主語

古文では主語が省略されていることが多く、また、文の途中で主語が入れ替わることも多い。そのため、順番に主語を確かめながら読む必要がある。

主語を捉える手がかり

❶**前の文の主語に当たる言葉**が、次の文の主語であることがある。

例 今は昔、丹後の国に老尼ありけり。地蔵菩薩は暁ごとに歩き給ふといふ（老尼は）ことをほのかに聞きて、……。

【現代語訳】今となっては昔のことだが、丹後の国に年老いた尼がいた。地蔵菩薩は毎日夜明け前に歩きなさるということを老尼はほんの少し聞いて、……。

❷**助詞「の」**が主語を表すことがある。

例 黒き雲の（が→主語）、やうやう消えて、しろうなりゆくもいとをかし。

【現代語訳】黒い雲が、だんだん消えて、白くなっていくのもたいそう趣深い。

「の」には、「竹取の翁」「風の音」など、連体修飾語をつくる働きもあるので、「……が」と訳して文脈に合うかを確かめましょう。

❸会話のやりとりの場面では、主語が交互に変わっていることが多い。

例〔宇多院が河原の院にいると、融の大臣の霊が現れた。〕
（宇多院が）「あれは誰そ。」と問はせ給へば、（融の大臣が）「ここの主に候ふ翁なり。」と申す。
（宇多院が）「融の大臣か。」と問はせ給へば、（融の大臣は）「しかに候ふ。」と申す。

【現代語訳】（宇多院が）「お前は誰だ。」とお尋ねになると、（融の大臣が）「ここの主人の老人でございます。」と申しあげる。（宇多院が）「融の大臣か。」とお尋ねになると、（融の大臣は）「そうでございます。」と申しあげる。

主語を捉えるには、初めに登場人物を確認しておくことも大切です。随筆や日記などでは、文章中に書かれていなくても作者も登場人物の一人と考えます。主語が作者のときは省略されることが多いので注意しましょう。

●会話文

前後の言葉に注意して会話文の部分を見つける。特に、「言ふ」「申す」「問ふ」など、話すことに関係する言葉の近くに会話文があると考える。

- 会話文の始まり…主語、または、主語＋述語の後から会話文が始まることが多く、「いはく」「言ふやう」などの言葉があるときは、直後から会話文が始まる。
- 会話文の終わり…「と」「とて」「など」の直前で会話文が終わる。

人物、（＋述語）
いはく（言ふやう、申すやう など）、 → 会話文 → （と・とて など）

主語　会話文　引用の「と」＋「言ふ」
例 渡し守、はや舟に乗れ、日も暮れぬと言ふに、……。

【現代語訳】渡し守が、「早く舟に乗れ、日も暮れた。」と言うので、……。

SAMPLE

確認問題

1 助詞　次の文を現代語訳するとき、どのような助詞を補うとわかりやすいですか。現代語訳の□に当てはまる助詞を、それぞれ平仮名一字で書きなさい。

① 信濃の国に更級といふ所に、男住みけり。

【現代語訳】　信濃の国の更級という所に、男□住んでいた。

② 馬の口とらへて老いを迎ふる者は、……。

【現代語訳】　馬のくつわ□取って老年を迎える者は、……。

③ 沖には平家、舟を一面に並べて見物す。

【現代語訳】　沖には平家□、舟を（海上）一面に並べて見物する。

2 主語　次の――線の言葉の主語に当たるものを、それぞれ後から選び、記号で答えなさい。

① 今は昔、藤原広貴といふ者ありけり。死にて閻魔の庁に召されて、王の御前と思しきところに参りたるに、……

死んで閻魔大王のもとに呼び出されて、閻魔大王の御前と思われるところに参上したところ

② 守、「歌詠め。をかしう降る雪かな。」と言へば、この侍、「何を題にてつかまつるべき。」と申せば、「裸なる由を詠め。」と言ふに、A「何を題として詠めばよいだろうか。」程もなく、震ふ声をささげて詠みあぐ。B「裸であることを詠め。」

国守が、「歌を詠め。趣深く降る雪だなあ。」と言うので　震える声を張り上げて歌を詠む　まもなく

ア　藤原広貴　　イ　閻魔大王　　ア　守　　イ　侍

A□　B□

3 会話文　次の各文を読んで、後の問いに答えなさい。

(1) （自分の偽物が現れて困った長者が）帝に愁へ申せば、母上に問へと仰せあれば、母に問ふに、人に物くるるこそ我が子にて候はめと申せば、する方なし。

訴え申しあげると　おっしゃるので　物を与える者が我が子でございましょう　（長者は）どうしようもない

① 帝の会話文を五字で抜き出しなさい。□

② 「母」が話した言葉の部分に――線を引きなさい。

(2) 翁、孔子の弟子どもを招くに、一人の弟子招かれて寄りぬ。翁いはく、この琴弾き給ふは誰ぞ。もし国の王かと問ふ。さもあらずと言ふ。

手招きすると　近寄ってきた　もしかして国王か　そうではない

① 「翁」が話した言葉の部分に――線を引きなさい。

② 弟子の会話文を五字で抜き出しなさい。□

SAMPLE

基本問題

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

姫君の①のたまふこと、「人々の、花、蝶やと②愛づるこそ、はかなくあやしけれ。人は、まことあり、③本地たづねたるこそ、④心ばへをかしけれ。」とて、よろづの虫の、恐ろしげなるを取り集めて、「これが、成らむさまを見む。」とて、さまざまなる籠箱どもに入れさせ給ふ。中にも⑤*鳥毛虫の、心深きさましたるこそ心にくけれとて、明け暮れは、*耳はさみをして、手のうらにそへふせて、まぼり給ふ。

〈「堤中納言物語」より〉

（注） 鳥毛虫＝毛虫。
耳はさみ＝額の髪がじゃまにならないように耳にかけること。身分の低い者がするしぐさなので、姫君としては行儀の悪いふるまいである。

【現代語訳】

姫君がおっしゃることには、「人々が、花よ、蝶よともてはやすことは、あさはかでよくない。人は、誠実な心があって、ものごとの本質□追究してこそ、□。」と言って、いろいろな虫で、恐ろしそうな虫を集めて、「これが、成長する様子を見よう。」と言って、さまざまな虫かごなどに入れさせなさる。中でも、「毛虫が、考え深そうな様子をしているのが心引かれると言って、朝晩、額の髪を耳にひっかけて、（毛虫を）手の中に入れて、見守っていらっしゃる。

要点プラス
- かぎかっこが付いていない会話文を探すときには、まず「と」「とて」に着目して、会話文の終わりを見つけるとよい。「とて」は引用を表し、「……と言って」「……と思って」などと訳す。

(1) 主語 ——線①「のたまふ」、②「愛づる」の主語として適切なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

①［　　］　②［　　］

ア 姫君　イ 人々
ウ 花　エ 虫

(2) 助詞 ——線③「本地たづねたる」とありますが、「本地」と「たづねたる」の間に補うことのできる助詞を、平仮名一字で書きなさい。

［　　］

(3) 現代語訳 ——線④「心ばへをかしけれ」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

［　　］

ア 性格が変わっている
イ 考え方がおかしい
ウ 気立てもすばらしい
エ 性格がかわいらしい

(4) 会話文 ——線⑤「鳥毛虫の、」から始まる会話文の終わりの五字を抜き出しなさい。

［　　］

(5) ! 文章の把握 この文章から読み取れる姫君の様子として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

［　　］

ア 花や蝶を愛することは趣深いことと考えている。
イ 人よりも虫の方が誠実な心をもっていると考えている。
ウ 恐ろしげな虫が成長していく様子を観察している。
エ 毛虫が特に気に入っていて、他の虫から守っている。

SAMPLE

2 **次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。**

能筆（文字が上手なこと）で名高い昭乗が、京都から江戸に行き、将軍の御前で字を書いたときに、関東は水がよくないので書きにくいと言った。

「都にてはいかなる水をもて書くにや。」と①問はせ給ふとき、「京の柳の水こそいと軽くてよろしき。」と②申す。③将軍あやしと思しめして、密かに都へ人を上せ、柳の水を瓶に入れて取り下らしめ、重ねて昭乗を召し、試みられけるに、④筆を取りて硯にさし浸し、いささか文字を書きけるが、やがて筆を止め、傍に向かひて、⑤「これは軽くてよき水なり。京にて用ゐる柳の水に変はらずと申しけるにぞ、皆人大いに驚きけるとなん。

〈「落栗物語」より〉

【現代語訳】

「都ではどのような水で書くのだ。」とお尋ねになると、「京の柳という場所の水がとても軽くてよろしい。」と申しあげる。将軍□不審だとお思いになって、こっそり都へ人をやり、柳の水を瓶に入れて取ってこさせ、再び昭乗をお呼びになって、お試しになったところ、筆を取って硯に浸し、ちょっと文字を書いたところ、すぐに筆を止め、そばの人に向かって「これは軽くて良い水だ。京で使う柳の水と変わらないと申しあげたので、人々は皆たいへん驚いたということだ。

要点＋

- 主な登場人物が二人（人物Aと人物B）の場合、人物Aと人物Bで交互に主語が入れ替わることが多い。
- 主語が入れ替わるのは、「……に、」「……ば、」の後であることが多い。

このことをヒントに、主語がどこで入れ替わっているのかを確かめながら読む。

(1) **主語** ——線①「問はせ給ふ」、②「申す」の主語として適切なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

①［　　］　②［　　］

ア　昭乗　　イ　将軍
ウ　人　　エ　皆人（人々）

(2) **助詞** ——線③「将軍あやしと思しめして」を現代語訳するときに、どのような言葉を補うとわかりやすいですか。次の□に当てはまる言葉を、平仮名一字で書きなさい。

・将軍［　　］不審だとお思いになって

(3) **主語** ——線④「筆を取りて硯にさし浸し、いささか文字を書きける」の主語として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。［　　］

ア　昭乗　　イ　将軍
ウ　人　　エ　皆人（人々）

(4) **会話文** ——線⑤「これは」から始まる会話文の終わりの五字を抜き出しなさい。［　　］

(5) **文章の把握** この文章の内容と一致するものを次から一つ選び、記号で答えなさい。［　　］

ア　昭乗は、都と関東の水が違うといって字を書かなくなった。
イ　将軍は、昭乗が自由に書道を楽しめるように都の水を取り寄せた。
ウ　書道の名人である昭乗は、墨を擦るための水の違いまでわかった。
エ　将軍は硯の水をこっそり変えて、昭乗のうそを見破った。

SAMPLE

演習問題

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小さな島に一人取り残され、途方に暮れている姫君を、小舟で通りかかった海士（漁師）が見つけた。姫君は、生まれて初めて見る海士の姿におびえる。

姫君さめざめと泣き給ふ。①海士、舟漕ぎ寄せて申すやう、「いかなる人にておはすれば、かかる島にただ一人おはするぞ。」と申せば、姫君のたまふやう、「われは京の者なり。通る舟に捨てられてあるなりとおほせければ、「まことに捨てられてましまさば、われらが住む所へ入らせ給へ。」と②申せば、「うれしくこそあらめ。」と③のたまへば、さらばとて、海士が舟に乗せ参らせて、汀に漕ぎ寄せて、抱き、負ひたてまつりて、己が*岸へ入れたてまつりぬ。次の日、*上の岩屋しつらひて、別に据ゑたてまつりて、④主のごとく、かしづきたてまつることかぎりなし。

〈「岩屋」より〉

（注）岩屋＝自然の岩穴を利用した住まい。岩に横穴を空けて作ったものもある。
上の岩屋＝海士が住んでいる岩屋よりも高い場所にある岩屋。

(1) **助詞** ——線①「海士、舟漕ぎ寄せて」を現代語訳するときに、どのような言葉を補うとわかりやすいですか。次の□に当てはまる言葉を、平仮名一字で書きなさい。

▪海士□、舟を漕いで（島に）近づいて

(2) **主語** ——線②「申せば」、③「のたまへば」の主語を、それぞれ古文の中から二字で抜き出しなさい。

②□　③□

(3) **主語** ——線④「主のごとく、かしづきたてまつる」とはどういうことですか。次の文の□に当てはまる人物を、古文の中からそれぞれ抜き出しなさい。

▪□が□を、主君のように大切にするということ。

(4) **会話文** 古文の中に、姫君の話した言葉でかぎかっこの付いていない部分が一つあります。その部分を二十字程度で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

□～□

(5) **文章の把握** この文章の内容と合うものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　海士は姫君の事情を聞くと、舟に乗せて京へ連れていった。
イ　海士は島から姫君を助け出し、連れて帰って大切に世話をした。
ウ　姫君は、海士と一緒に暮らすのを嫌がって別の岩屋に移った。
エ　姫君は海士の申し出を断り切れず、おそるおそる付いていった。

□

SAMPLE

2　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

作者は、土佐（現在の高知県）から船で都に向かっているが、悪天候のため、しばらく港に停泊していた。今日は天候が回復し、四日ぶりに出航することになった。

①「船疾く漕げ。日のよきに。」②ともよほせば、楫取り、*船子どもにいはく、
天候がいいから　催促すると

*御船よりおほせたぶなり。*朝北の出で来ぬさきに綱手はや引けと言ふ。こ
船君からお言葉をいただいたよ　吹いてこないうちに引き綱を早く引け

の言葉の歌のやうなるは、楫取りの自づからの言葉なり。楫取りはうつた
歌のようであるのは　たまたま言った言葉である

へに、われ歌のやうなること言ふとにもあらず。聞く人の、「あやしく歌
自分が歌のようなことを言おうとしたのでもない　不思議に歌のよう

めきても言ひつるかな。」とて、③書き出だせれば、げに三十文字あまりな
書き出してみると　本当に

りけり。

〈紀貫之「土佐日記」より〉

（注）楫取り、船子＝「楫取り」は船頭、「船子」は楫取りのもとで働く水夫。
御船＝船君。船を雇っている人、つまり、作者のこと。
朝北＝朝に吹く北風。

(1)　助詞　――線①「船疾く漕げ。」を、適切な助詞を補って現代語に直して書きなさい。

(2)　主語　――線②「もよほせば」の主語として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　楫取り　　イ　船子
ウ　船君（作者）　　エ　聞く人

(3)　主語　――線③「書き出だせれば」の主語として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　楫取り　　イ　船子ども
ウ　船君（作者）　　エ　聞く人

(4)　会話文　古文の中に、楫取りの会話文で、かぎかっこが付いていない部分が一箇所あります。抜き出しなさい。

(5)　文章の把握　――線「この言葉の歌のやうなる」とありますが、「この言葉」のどのような点が「歌」のようだというのですか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　「朝北」「綱手」といった風流な言葉を使っている点。
イ　和歌のように五・七・五・七・七に区切れる点。
ウ　歌うときのように、節をつけて話している点。
エ　「朝北」という季語や「なり」という切れ字を含んでいる点。

「主語は？」と確かめる習慣をつける

今も昔も日本語の文は、主語を全て書かないことが多いのですが、主語を取り違えたまま読み進めると文章全体の内容を正しく捉えることができません。

最初に、古文に出てくる人物をおおまかにつかみ、人物どうしの関係を押さえたうえで、一つ一つの動作が誰の動作かを確かめながら読むようにしましょう。

SAMPLE

弊社サンプルをご覧いただき、
ありがとうございました。

紙面サンプルは
ここまでです！

Bunri Teachers' Site へのご登録で、
全ページ見本※と目次をご覧いただけます。

※一部教材を除く

会員登録はこちら

Bunri Teachers' Site とは？

株式会社文理が運営する、塾・学校の先生方のための情報サイトです。

- 文理の教材紹介
- デジタルサービスやテストのお申込み
- 教育情報の発信
- オンラインセミナーのお知らせ

■ Bunri Teachers' Siteへのご登録には弊社発行の招待コードが必要です。
■ 本サイトは一般の方のご利用をお断りしております。あらかじめご了承ください。

BUNRI